

平成24年度事務事業評価シート（23年度実施事業分）

事業番号	04 08 12	中期総合計画主要施策番号	3-06、5-06	担当課	部・課	健康福祉部健康長寿課介護支援室	
事業名	宅幼老所支援事業 (地域福祉総合助成金交付事業)				内 線	2439	
					E-mail	kaigo-shien@pref.nagano.lg.jp	
実施期間	H14 ~	根拠法令等	地域福祉総合助成金交付要綱、安心生活支援事業実施要領、高齢者プラン				
実施方法	市町村へ補助金を交付し実施					国庫・県単	県単独事業

  

事業の概要等	目的 (必要性)	小規模で家庭的な雰囲気を持つ宅幼老所において、高齢者や障害者がきめ細やかなケアを受けることができる地域社会を実現する。				
	対 象	市町村				
	目指すべき姿	・概ね小学校設置区域に1か所(全県で400か所)をめどに宅幼老所が設置され、地域に住む高齢者や障害者等のケアを実施する。 (高齢者プランにおける宅幼老所整備目標数400か所(H23年度末))				
	事業内容	1 事業主体 市町村 2 事業内容(1)宅幼老所等施設整備事業(【県】2/3、【市町村】1/3)限度額7,500千円 (2)宅幼老所など通所施設における防火機能強化事業(【県】1/2、【市町村】1/2)限度額消防法施行令6項口200千円、6項ハ400千円) (3)宅幼老所など通所施設における緊急宿泊支援事業(【県】1/2、【市町村】1/2)4,000円/日(一人当たり年36回を限度) (4)地域共生型生活ホーム等への運営費助成事業(【県】1/2、【市町村】1/2)200,800円/月				

  

事業コスト	区 分		単位	22年度	23年度	24年度(当初)	23年度事業費の主な内訳  補助金: 22,859千円(岡谷市 など延べ37市町村)  注)最終予算額(A)は地域福祉総合助成金交付事業の全体額
	最終予算額 (A)		千円	*300,000	*285,000	*267,350	
	決 算 額 (B)		千円	24,000	22,859		
	B(H24はA)のうち一般財源		千円	24,000	22,859		
	概 算 人件費	従事する職員数	人	1.20	1.20	1.20	
	概算事業費 (B(H24はA) + C)		千円	33,980	32,769	277,260	
事業実績	成果指標・活動指標内容		単位	22年度	23年度	24年度(見込)	左記以外のH23年度実績  (効率指標 算出式) 概算事業費/施設整備補助実績
	整備実績数(成)		箇所	7	7	1	
	施設整備補助実績数(活)		箇所	3	4	1	
	<効率指標(単位当たりコスト等)> 施設1箇所あたりコスト		千円/箇所	11,327	8,192	277,260	

  

事業の成果	事業の目標(H23)		事業成果・評価				評価区分
	宅幼老所について、23年度までに390箇所(推定)が整備され、高齢者プランの整備目標(400か所)に向けて着実に整備を進める。 消防法施行令の改正をふまえ、防災機能強化のための支援を着実に進める。		23年度に4 箇所の施設整備補助を行い、全体で7箇所が整備されて397箇所となり、高齢者プランの整備目標(400箇所)は概ね達成された。 耐震改修補助では1箇所、防火機能強化補助では、19箇所について整備を行った。 以上により、概ね期待どおりであった。				b 期待どおり

  

事業の課題	区 分		判 定 ・ 説 明			
	事業ニーズの変化	増加	横ばい	減少	判定の説明	国庫補助の隙間を埋める事業としてニーズが依然として高いことから、県として継続して支援をしていく必要がある。
	県の関与を見直す余地	余地なし	当面余地なし	余地あり		
	事業改善(有効性・効率性)の余地	余地なし	当面余地なし	余地あり		

  

総合分析等	総合分析 (今後の課題、取組方針等)	国庫補助の隙間を埋める事業として、事業ニーズが高いことから継続して実施していく必要がある。				
	特記事項	・宅幼老所の整備等については21年度から他の県単独事業と統合して補助している。 ・通所施設における緊急宿泊支援事業は平成23年度信州型事業仕分けで「現行どおり・拡充」とされた。 ・緊急宿泊実施事業所の拡充を図るため、現在、事業を実施していない市町村においても補助事業を活用し、早期に事業が定着するように推進する。				